

2019 《後期》 構音指導講座 * 最終案内 *

A 早期終了を目指す側音化構音指導の実際

— 早期終了を目指す「指導プログラムと指導上の基本的な留意事項」 —

B 構音指導オムニバス —子どもを育む構音への指導—

— 様々な指導場面の視聴とその解説 —

おさそい

2018構音指導講座と2019《前期》構音指導講座では、主に構音(点)指導、つまり、『音づくり』を中心に指導ビデオの視聴と解説を行いました。

構音指導の難しさは、「誤り自覚や直す意欲」の有無とは無関係。従って、年中児からでも側音化構音への指導が可能である。また、[i]に側音化構音が認められても[i]から指導を始める必要がない。また、構音時に下顎に偏位が認められても、たとえ舌に膨らみが認められても、顎や舌への直接的・間接的な指導は必要ない等々について、年中児まさき君の側音化構音に対する指導を通して解説を行いました。いかがだったでしょうか？

《後期》講座では、《前期》講座の復習から入り、『会話での定着』を図るための指導プログラムの効果的な立て方、そして、構音(点)指導を成立させる子どもとの関係づくりについて、わがままな子や緘黙的な傾向のある子との関係のとり方、逆に、「誤り自覚や直す意欲」があり早期改善が求められる子へのアプローチの仕方等々について、考えてみたいと思います。

《後期》講座の募集は、《前期》講座の募集の際から始めております。これまでに北海道から沖縄まで、全国からのお申し込みがありました。ところで、講座内容に対して何点かのご要望がありましたので、できるだけご要望に沿うように、以下の2点の内容を追加しました。

① [ki・ke]の構音(点)指導＝音づくり

② びいさんの指導について、10回の全てについて視聴の希望が寄せられました。時間の関係で、2・3回目はフル視聴、4～10回目までは、それぞれの回のダイジェスト視聴を通して「会話への般化まで」の指導経過と指導プログラムの解説を行います。

従って、《前期》案内時に示した内容・日程とは、若干変更があります。ご了承下さい。

* お願い *

お知り合いの先生方に、構音指導に興味関心をお持ちの先生がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご紹介いただければと思います。

山形言語臨床教育研究会 代表 梅村 正俊

主 催：山形言語臨床教育研究会・親子ことばの相談室

開催期日：令和元年(2019)8月17日(土)～18日(日)

場 所：ヒルズサンピア山形(2階：蔵王の間)山形市蔵王飯田637 ☎023-631-1555

ご注意：ホテルの住所は“蔵王飯田”となっておりますが、スキーや樹氷で有名な“蔵王”とは異なります。

また、「蔵王」や「宮城蔵王」など、紛らわしい名称のJR駅がありますので、ご注意下さい。

尚、講座の内容・日程は、宿泊を前提に構成しております。また、交通の便を考えると、宿泊されることをお勧めいたします。

講 師：梅村 正俊 親子ことばの相談室 及び さとみ矯正歯科クリニック非常勤：言語聴覚士

【 講座参加費 】 5,000円(当日徴収)参加募集定員：100名

【 参加申込の方法 】 指定の用紙に必要事項を記載し、FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

【 参加申込の締切 】 8月7日(水) … 但、定員になり次第締め切ります

尚、参加申込のFAX送信後、1週間経っても連絡がなければ『受付完了』とご理解下さい。

【 宿泊申込の締切 】 7月26日(金) … 先着40名：詳細は、参加申込書に記載

宿泊ホテル：ヒルズサンピア山形 山形市蔵王飯田637 ☎023-631-1555

【 昼食申込の締切 】 7月26日(金) … ホテルの近くにはコンビニ・食堂・レストランはありません
あらかじめ予約をされたいことをお勧めいたします。

【 問い合わせ先 】 親子ことばの相談室 * お問い合わせは、全てFAXでお願い致します。

990-2483 山形市上町 5-11-24

FAX専用：023-646-6492

★ 全日程での講座の基本的な進め方

- ① 演習形式での進行が基本
- ② 質問がある場合は、講話の途中であっても、話をさえぎってでも質問して下さい！

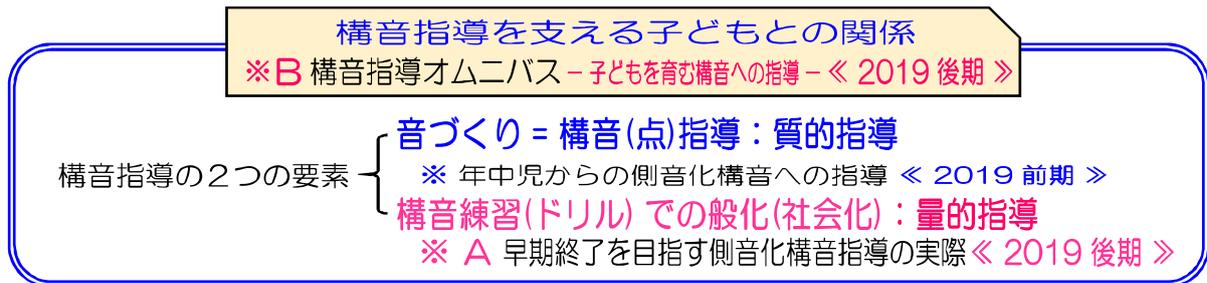
お断り：参加者の更なるご要望により、当日の内容・日程が変更されることがあります。
できるだけご要望にはお応えしたいと考えています。予め、ご了解ください。

8月17日(土) ※ 登場するお子さんの名前は、全て仮名です

受付 9時30分～10時頃

10時頃～12時30分頃

2019<前期+後期>構音指導講座の全体構造構成<概略>



<前期>講座から = 復習

◎ 機能的構音障害としての「構音の誤り」に対する『構音(点)指導 = 音づくり』

- ① 構音(点)指導の際の「誤りの自覚がない・直す意欲もない」は、指導の難易度とは無関係
- ② 側音化構音に対する指導でも、舌の体操などの指導は全く必要ない
- ③ [i] に側音化構音が認められても、[i] から指導する必要は全くない ほか

Q 「発音の誤りの自覚がない」従って「直す意欲もない」子の方が、音づくりがし易い。その訳は?

ヒント：(例) 側音化構音 [tʃi] の発語は、「ち」を言おうとしたその瞬間には、側音化構音「ち」の構音運動は、すでに始まるのです。

*** 側音化構音[tʃi]の構音運動を『超スロー』で観察してみましょう！**

重要：ですから、**口腔内の図**を用い、舌の動かし方を**前もって**説明する行為は、側音化構音を**誘発**しておいて正音の構音動作を導こうという**矛盾**した行為を要求することになります。従って、当然……

◎ [ki][ke] の構音(点)指導

[ke] が [te] に置換しようとして側音化構音になろうと、目指すは [ke] の構音運動ですから、側音化構音だけに特別有効な指導の方法というものは、必要ないですし、あり得ないのです！

ために

Q [ki] [ke] に誤りが認められる**幼児5名**に対する、最初の**構音(点)指導**を視聴し、それぞれの**子どもの誤りのタイプ (側音か? 置換か?)**を考えてみましょう！

12時30分頃～13時30分頃：昼食・休憩

13時30分～18時頃 (途中休憩)

A 早期終了を目指す側音化構音指導の実際

— 指導プログラムと指導上の基本的な留意事項 —

年長児びいさん(通室10回終了)の側音化構音「チ・シ」への構音指導

HPからのレポートのダウンロード：低年齢児の『誤り構音』への指導 - 側音化構音への指導は、難しいわけじゃない -

時間の関係で、2・3回目はフル視聴、4～10回目までは、それぞれの回のダイジェスト視聴を通して、「会話への般化まで」の指導経過の視聴と解説を行います

- ◎ 「チ・シ」の構音が会話にある程度(指導終了ではありません)定着するまでのプロセスの指導の視聴と解説で、大まかな指導のプロセスをイメージしていただきます

⑧ 4/

⑨ 5/7(は)

いじかるまね...びい せんせい

ポケモンずきろく

	1	2	3
	びい	せんせい	ポケモン
	×	×	×

①) リンゴ フォリン ムネア ヲリヤ

ヒ @ キーッア チリヤ @ ヲリヤ

⑩ 5/8

ポケモンゲーム

ちりとり

きりりせん

しりり

3~6	1	2	3
びい	せんせい	ポケモン	ゲーム
×	×	×	×

18時頃 ~ 19時頃：夕食・休憩

19時頃 ~ 21時30分頃 (途中休憩)

早期終了を目指す「指導プログラムと指導上の基本的な留意事項」

HPからのレポートのダウンロード：構音障害児の指導あれこれー難治性構音障害の的確な診断と指導のあり方『補足』ー

HPからのレポートのダウンロード：構音指導効果の般化の様相と構音指導プログラムについてー側音化構音障害の構音指導を中心にー

I 側音化構音に対する指導の終了判断の「観点・基準」と「判断の方法」

- 重要事項：終了判断 = 何気ない会話・寝言 等々 = 無意識の発語での改善 !!

II 構音指導の全体像(概略)と構音指導の2つの要素

◎ 構音指導の全体像(概略)

◎ 構音指導の2つの要素

- 音づくり：構音(点)指導 = 子音や音節レベルで構音ができるようにする指導 = 質的指導 (前期講座)

- ヴァンライパーによる構音(点)指導の5つの方法 (概略)

- ① 漸次接近法
- ② 聴覚刺激法
- ③ 構音器官の位置づけ法
- ④ 他の音を変える方法
- ⑤ 鍵になる語を使う方法 (key word法)

- 他の構音指導 (概略)

- A クーパーの方法
- B 構文能力を高める指導

- 構音練習：社会化へのステップ(構音指導プログラムの必要性) = 量的指導

III 機能的構音障害全般における構音指導のプログラム

= 構音指導プログラムと指導上の基本的な留意事項 =

HPからのレポートのダウンロード：構音指導プログラム (基本)

重要：例えば、[ke] が [te] に置換しようと側音化構音になろうと、目指すは [ke] の構音運動ですから、側音化構音だけに有効なプログラムというものは、必要ないですし、あり得ません。

重要：構音指導プログラムを丹念に順序良くこなしていくことが、効果的な指導ではありません。構音指導は『ノルマ』の指導ではありませんから、指導の全体像を意識しながらも、その子に応じていかに効率よく効果的に段階を飛ばせるかなのです。そこに**早期終了のポイント**があるのです。

重要：練習で、50回『側音の[チ]』を言わせれば、50回『側音の[チ]』の練習をさせたことになる！

- 1 構音指導開始音 (初めに指導する誤り音) の選定と終了判断 (誤り方に関係なく)

- 2 音づくり = その音が言える = 基本的には質的指導【講座前期で終了：若干の補足説明】
音づくりの段階は、ない！ あるのは指導のレパートリー

3 構音練習プログラム(会話への般化の手続き) = 基本的には量の指導

* 指導のレパートリー

* 指導のプログラム

指導の各段階ごとの『指導映像』での解説

- 続けて言う
- 1つの単語の語頭での練習から「語中化」への指導の例
- 「句や短文で言える」の練習での般化化：会話化
- 楽しい反復練習＝短文の練習…トランプあわせゲーム

4 家庭での練習 — 効果的な導入のタイミング・必要な練習課題・留意事項 —

実施の仕方によっては、「新たな構音障害の形成 や 誤り構音の強化」の原因に！

IV 側音化構音の指導の経過の中で認められる逆戻り現象(?)の見方と指導の見直し

逆戻り現象かなあ？ 元々直っていなかっただけ？

V 日常会話に般化し難い子どもの特徴とそれに対応する指導の基本

予後の判断の観点 { 短期間で終了する子ってどんな子 =
側音化構音の子であっても、通室5～20回前後での終了
長期間を要する子ってどんな子

HPからのレポートのダウンロード：イ列構音障害の改善に要した時間とその要因について

HPからのレポートのダウンロード：イ列構音障害の改善に要した時間とその要因 — 指導事例を通して —

◎ 打たれ強い子 打たれ弱い子

◎ 語音認知に問題のある子

◎ 単語レベルでの連続発語の苦手な子

*** ご注意 *** 土曜日の山形駅方面へのバスは、19時10分発が最終になります！

8月18日(日)

9時頃～12時頃(途中休憩)

B 構音指導オムニバス — 子どもを育む構音への指導 —

色々な子どもの様々な指導場面の視聴を通して『子どもを育む構音への指導』を考えてみましょう

話題① 構音の誤りが多く、話がほとんど通じないことに苛立ちを感じていた年長児への構音指導
まさと君は、話がほとんど通じず、他の相談・指導機関では知的障害と誤った判断をしていました

YouTube事前視聴 = ほとんどの発語を理解することが難しかった男の子＝1年間指導時のピフォーアフター全編

Q

Q：まさと君の構音検査から、皆さんの考える構音指導開始音の子音は、何でしょう？

話題② まともな自己紹介ができるようになりたいと来室した中学生3年生への構音指導

6年間ある機関で指導を受けましたが直りませんでした。でも、でも、諦めきれず、矯正歯科へ…

話題③ 緘黙的傾向が強い1年生エイ君との「関係づくり」と構音指導

HPからのレポートのダウンロード = 「話をしない」と「発音の誤り」とを主訴に来室したエイ君の2回目の指導の中での変化

話題④ ゲームの負けに弱いわがままな子との「関係づくり」と構音指導

話題⑤ 通級5回で指導終了した1年生A君の通級2回目の指導の様子

HPからのレポートのダウンロード = 「構音指導における『構音の改善』に関わるいくつかの要因について — 指導事例を通して —

13時頃～16時30分<終了>途中休憩

話題⑥ 誤りの自覚があり、直す意欲もある子の練習風景

両側性側音化構音（口蓋化構音だった）のあるk児への19回目の指導…から

HPからのレポートのダウンロード＝「構音指導における『構音の改善』に関わるいくつかの要因について－指導事例を通して－

子どもを育む構音への指導

「サイコロ一つあれば、構音指導の最初から最後までできる」と言って実践して見せてくれた大先輩＝論より証拠
つまり、構音指導において、教材・教具は、少なければ少ない方が良い。そして、無いのが最も良い。

◎ 『指導』の基本

- 指導は、「〇〇〇～〇〇〇〇」から始まり、「□□□□～□□□□」で終わるの心構え
「1回の指導の流れ」と「指導室内での活動（練習）」
- 今日の『この子、どんな子？』



Q：3人のお子さんの初回面接の際、それぞれに写真のような人形の置き方をしました。さて、指導者は、3人のお子さんをどのようなお子さんと判断したのでしょうか？

- 子どもを透明な存在にしないための『今日の指導者？』
- 指導のプロセスで、自信が培われ、自立・自律していく力を育む指導

* 指導における「平行四辺形的関係」と「台形的関係」

練習（構音）することが、楽しい。

練習（構音）することに自信がある。

だから、もっと練習（構音）したい。

Q 上記のような関係は、平行四辺形的関係？ それとも 台形的関係？

- 指導における評価と賞賛

◎ 指導にあたっては、まずは自己点検を！<竹内敏晴氏による「からだ」と「ことば」のレッスン『とおりゃんせ』の体験から>

例：指導者が考えているほど、上手く構音してくれない時、子供のまですっかり困った顔になる 他 他 他 他 …

● 子どもを育む構音への指導 = まとめ

言葉は、キャッチボールと似ていると言うけれど …

以下の会話から、『投げる人をAさん、受ける人をBさん』として、指導関係を考えてみましょう

「キャッチボールって変ですよ」

香津子が、ジュースを飲みながら言った。

「何が変なんだ？」

「だって変な所にボールを投げて、それを拾いに行くのは相手の方じゃないですか？」

伊集院 静：麦を噛む 「男の涙 女の涙」日本ペンクラブ編・石田衣良選・光文社文庫 p183 から

「今、目の前にいる子どもの誤った構音に向き合うということは、その子の未来に向き合うということ」

16時30分<終了>

「保育園の時は大変だったもんね。ボクしゃべれなかったから、お友達もボクが何言ってるか分からなくてさ」「でも、今は、しゃべれるからいいよねー」「あー、しゃべれるようになってよかった」とまさと君

< まさと君の母親 >

息子に異変が起きたのは、平成〇〇年の夏、1歳9ヶ月の時でした。

まっすぐ歩くことが出来ず、持ったコップから水がこぼれるほど、手が震えたのです。その後、様々な検査を受けるも、はっきりとした原因は分からず「急性小脳失調症」との診断を受け、個人差もあるが、3ヶ月～1年で自然に落ち着くと説明を受けました。

1年経過する頃には、震え等の症状は落ち着いたものの、言葉の遅れを心配した医師のすすめにより耳鼻科を受診。異常はみられず。「あ」「ん」などの単語と身振り手振りにて意思疎通は出来ていたため、「まあ、男の子だし、遅いだけ」と言いきかせて過ごしていました。

3歳児健診の際にも「様子をみましょう」「入園後のお友達からの刺激に期待しましょう」ということで、入園当時は、ほぼジェスチャーでのやりとりでした。

入園しておよそ2ヶ月。園より今後の指導に不安があるとの話をいただき、すぐに3歳児健診でお世話になった臨床心理士さんに連絡をとり、県の発達相談を受け、発達支援の受け入れ先を探し、園とは別に週に1度通いながら、やっとたどり着いた某●●センター。息子は4歳3ヶ月になり、発語に関しては何の進展もない状態でした。結局ここでも「まだ年齢的にもこれから伸びる可能性は充分にある」「様子をみましょう」で、特に進展はありませんでした。

そうして保育園、年少・年中をわずかの単語（単音）とジェスチャーで何とか乗り切り、いよいよ年長。入学を控え、さすがに家族にも不安が募りましたが、受けている支援を続けていただきながら、時が経つのを待つしかないという、非常にもどかしい日々を送ることしかできませんでした。

そんな我が家に転機が訪れたのは、平成〇〇年の6月。年長となり2ヶ月が経ったころ、小学校の「ことばの教室」の先生による就学前の「言葉の検査」があったのです。兄が通学中の学校の先生であったこともあり、すぐに個人面談となり、その席で「梅村先生」をご紹介いただいたのです。

前置きが長くなりましたが、そんな状態で、初めて梅村先生とお話し、息子の状態を説明したところ、「お母さん、今まで何やってたの?」「もう年長でしょう?」「様子を見ている場合じゃないでしょ」「日程決めるからすぐに来て」と…。

えっとー、上記諸々してきたわけですよ。様子見てる場合じゃないのは重々承知の上ですが、どこに行ってもそう言われるんですけど……。不安だらけの中、6月末に面談を受けさせていただき、7月6日より「親子ことばの相談室」に週2回通室することになりました。（この時点で某発達支援事業所は退所）

息子が話せないのには、きちんとした理由があり、それは経過をみていけば改善させるものではなく、適切な指導が必要なのだといいます。それまで、母音しか話せない子だと思っていた息子は、子音と併せて音を作り上げることができなかつたのです。（違ったらゴメンナサイ）

梅村先生が作ってくれる「音」での遊びも交えながら楽しく吸収していく息子は、あっという間に「ママ」と呼べるようになり（それまでは「ばば」）、通室の度に、口からでる「発音」が増えていきました。

あわせて、9月には就学予定の小学校の「ことばの教室」への通室が決まり、週に3度、我々が願っていた「ことばに特化した支援」をいただけることになったのです。そんな日々が過ぎ、11月には、「さ行」「ら行」の他、句読点、促音、拗音などの細かい部分以外は、だいたい話せるようになり、園での様子も会話で伝わるまでになっていました。12月に開催されたクリスマス会でも、元気いっぱい踊り、歌っていました（自信がないため口パクですが…）

言葉で伝える事ができず、自己表現が少なかった息子が、どんどん自信をつけ活発になっていく魔法のような半年間。これまではいったい何だったのか。もっと早く出会いたかったと何度も思いましたが（今でも思っている）、梅村先生に出会う前に彼が受けていた支援は、先生と出会うための準備だったんだと思うようにしています。

- ・友達には分かってもらえないと知っていて、すぐに先生の所に行く。
- ・欲しいものがあったても自分では表現しようとせず、すぐあきらめる。
- ・「やってみる」という姿勢がない。
- ・自信をもってやれることしか、やらない。

そんな彼が、園では、体の不自由なお友達を助け、先生を独り占めして、ゆっくりと自分の思いを伝える時間をいただき、精神的にだいたい成長させていただいたからこそ、相談室での指導の間、一度も席を離れることなく、母（家族）が待つ部屋に来ることもなく、貪欲に「言葉」を学べたのだと思います。

そして、当初は、1年以上かかるだろう。従って、入学までには間に合わない。と言われていた指導も、平成〇〇年4月5日。入学式の2日前にことばの相談室を卒業する運びとなりました。

『今まで何やってたの？』『様子を見ている場合じゃないでしょ』

行政を頼り、必要とする支援先を探し、支援を受け、ただひたすらに「様子を見ましょう」「成長する子どものチカラを信じましょう」と言われ過ごした日々の中で私自身が常に感じていた思いでした。町役場職員をはじめ、保育園、受け入れ先施設、支援員の方々、県の相談担当者、医師のみなさま、数多くのスペシャリスト（だと思っていた）を介しても出会うことの出来なかった、理想の指導者に巡り合わせてくれたのは、学校の先生だったのです。「専門分野」の大切さを痛感しました。

言葉のスペシャリストの存在を「言語訓練士がいるから」と選んだ支援受け入れ先の職員ですら知らない現実を目の当たりにしたのです。

指導さえ受けられれば改善、いえ解決する問題だったのに、その指導者に巡り合うまでの道のりの長かったこと…。

金銭的なこと、家族や周囲の理解等、支援を受けたいと思っても、なかなか進めない状況もあることも知りました。幸い私は、夫はもちろん、同居する夫の両親の理解もあり、思うままに息子のために走ることが出来ました。担当職員にも恵まれ、親身にもなっていただきました。園の先生など貴重な時間を割いて息子のために尽力くださり、関わって下さった全ての皆さまに感謝はしております。

息子は元気いっぱい小学校に通い、音読や計算カードといった宿題にも意欲的に取り組んでいます。

そんな彼がある日、「保育園の時は大変だったもんね。ボクしゃべれなかったから、お友達もボクが何を言ってるか分からなくてさ」「でも、今は、しゃべれるからいいよねー」「あー、しゃべれるようになって良かったー」と言い出した時には驚きました。保育園時代、そんな風に感じていたなんて思いもしなかったからです。

今もなお、小学校の「ことばの教室」にお世話になっている息子ですが、しっかりと「ことば」でコミュニケーション（会話）ができております。梅村先生を結び付けてくださった宮宿小学校の渡辺先生には、本当に感謝いたしております。

やっとまともな自己紹介が出来そう

< 中学3年男子：高校入学を目前に >

小学生と中学生の始め頃、僕の苦手なことは、『自己紹介』だった。

本来それは、初めて会った相手に対し、自分の事を知ってもらおう為にすることだが、「s」の発音が上手く出来なかった僕は、人前で言葉を発することがとても苦痛でたまらなかった。

思えば、自分の発音がおかしいと自覚したのは、小学3年生くらいのころだったろうか。小学2年の秋に転校し、全校生徒の前で自己紹介をし、笑われたことを今もはっきりと覚えている。幼い頃は、その事を深く考えずにいたのだが、発音がおかしかったということなのだろう。

それから、小学6年生の卒業式。一人ひとりが自分の夢をステージの上で話す機会が設けられた。もちろん、「大声でハキハキと」という“めあて”のもとで。

日本語というものは本当に面倒くさいと当日は思っていた。丁寧語になれば「です。ます。」が必ず付く。実は、僕は、「s」の発音が出来ないということを知られないようにする為、なるべく「s」を用いない文字や単語を使うという工夫をしていた。

しかし、これから次々に行うことになるであろうスピーチや発表事に丁寧語は必要不可欠である。そんなことを考え、自分の工夫にも疲れていた僕は、「発音が良くなるのは、歯並びが悪いからではないか？」と母に相談した。そう思うのも無理はなかった。事実、小学6年生までの6年間以上『ことばの教室』に通っていたが、発音は良くならなかったからだ。

そうして歯を治そうと行ったクリニックのことばの先生に言われた事は、「歯を治さなくても発音は出来るかもしれない。」ということだった。

半信半疑だった僕は、とりあえず先生の言う通りにしているうちに「s」の発音が出来てしまった。6年以上を費やしても出来なかった発音が1回足らずで出来てしまったことに疑問も抱いたが、先生曰く、「ことばの教室の先生の教え方が間違っていたか、指導の仕方を知らなかった」らしい。

もっと早く先生のもとを訪れていればと、つくづく思うが、過去のことはこの際笑い話にでもして、新しい人生を歩んでいこうと思う。高校入学前に治せて本当に良かった。

やっとまともな自己紹介が出来そうな気がする。

FAX番号 023-646-6492

整理番号（ /100）

参加申し込みの際は、整理の都合上、この「参加申込書」をこのままご使用下さい
参加者お一人につき1枚でお申込み下さい。また、送付書はつけずに送信して下さい

*** ご注意下さい！ 宿泊のお勧め ***

ホテルの住所は“蔵王飯田”となっておりますが、スキーや樹氷で有名な“蔵王”とは異なります。また、講座の内容・日程は、宿泊を前提に構成しておりますので、交通の便を考えると、宿泊されることをお勧めいたします。

すでに宿泊『なし』で申し込まれた方は、『氏名』及び宿泊『あり』だけの記載でかまいませんので、お手数をおかけいたしますが、再度、FAXいただきますようお願い致します。

● すでに申込みが終了し、変更の無い方は、『最終参加申込書』での申し込みの必要はありません。皆さんの受け付けは完了いたしております。

○ 太枠内の全てについて、楷書でご記入下さい。また、※1・2の欄は必ずご記入下さい

◎ 講座への参加状況につきましては、（参加・不参加）のいずれかに○印をつけて下さい

講座への参加状況	2018構音指導講座（参加・不参加）		2019前期構音指導講座（参加・不参加）	
フリガナ お名前			※1 言語関係の担当：通算 年目	
所属所名				
所属所電話番号	電話 番号	※2FAX 番号		
	※2ご自分の 携帯番号			
	※2 中止の連絡等、緊急時の連絡先にしますので 必ず ご記入ください。 所属所への連絡だけで、間違いなく連絡がつく場合は、携帯番号の記載は必要ありません。			
所属所住所	〒 _____ 都道 府県			
昼食お弁当の希望	17日(土) あり なし 18日(日) あり なし 【和食系：1,000円 税込み】			
宿泊の希望	あり なし			
講座を知ったきっかけは？	<input type="checkbox"/> ハガキでの案内 <input type="checkbox"/> 相談室のHP <input type="checkbox"/> YouTubeを見ていて <input type="checkbox"/> 知人からの紹介			
上記以外の講座の内容に対するご希望・ご質問をご記入下さい				

【 宿泊申込の条件 】 宿泊ホテル：ヒルズサンピア山形

17日(土) 一泊：夕・朝食付 料金：9,950円(消費税・入湯税込)

尚、宿泊部屋は、一室4名での和室になります。同室になる方の組み合わせは、職種の違いや地方との交流等を考慮し決めたいと考えています。事務局にご一任いただける方のみ、お申込み下さい